



# 高松で第3回かがわ「里海」づくりシンポジウム

## 山、里、川、海 すべては、つながっている

グループディスカッションで、里海づくりのアイデアについて参加者と一緒に話し合う児童



### テーマ「里海づくりから持続可能な社会づくりを考える」

「里海」とい言葉は、21世紀に入ってから使われるようになった新しい言葉。泳いだり、海の幸を味わったりして楽しむだけでなく、海がもたらす恵みや環境を大切にする。海がもたらす恵みや環境を大切にする。海がもたらす恵みや環境を大切にする。

里海づくりについて 大倉恵美氏 香川県環境森林部環境管理課水環境・里海グループリーダー  
里海は「人と自然が共生する持続可能な海の空間」のこと。海と陸をつなぐ役割を果たす。里海は、昔に比べて海との距離が短縮され、人と海が近くなっている。その一方で、海がもたらす恵みや環境が失われつつある。里海づくりとは、人と海が共生する持続可能な海の空間を創出することだ。

里海づくりを知り、動き始めた小学生らとともに自然共生型の暮らしや社会について考える「第3回かがわ『里海』づくり協議会主催」(香川県、かがわ「里海」づくり協議会主催) が3月26日、高松市のアルファあなふきホールで開かれた。付属高松小の黒田拓志先生と同小5年組組の児童による公開授業やグループディスカッションなどを実施。児童30人を含む約140人の参加者は、傍聴するだけでなく、意見交換を重ねるなどしながら、会場が一体となって「里海」への理解を深めました。

### 付属高松小5年生ら公開授業 クロストーク・グループディスカッション



### 里海人宣言!!

We are 里海人 私は〇〇と〇〇人宣言 宣言をたためた参加者ら高松市玉津町アルファあなふきホール

### 開会あいさつ 増田拓朗氏(かがわ「里海」づくり協議会会長)



「里海」とい言葉は、21世紀に入ってから使われるようになった新しい言葉。泳いだり、海の幸を味わったりして楽しむだけでなく、海がもたらす恵みや環境を大切にする。海がもたらす恵みや環境を大切にする。海がもたらす恵みや環境を大切にする。

付属高松小5年生ら公開授業 クロストーク 谷 里海へは一人ひとりが関わること。みんなで活動して、おしなべてして知り合いを増やそう。意見交換をしよう。対話を通して新しいアイデアが生まれる。企画が立ち上がり、行動する人が増えていきます。このシンポジウムもそう。児童30人が、黒田先生のリードで、里海のことを考え、意見を述べ、知識を深めています。黒田先生は、児童の意見を聞き、丁寧に答えています。児童も、黒田先生の話を聞き、積極的に発言しています。

## 地域を知り、環境のために行動を



里海づくりのアイデアを発表しながら、理解を深め合う児童ら

黒田「これまでの授業で、香川県はまだ『里海』とは何なのか、というところから、児童も積極的に発言しています。黒田先生は、児童の意見を聞き、丁寧に答えています。児童も、黒田先生の話を聞き、積極的に発言しています。

自分考案里海へのアイデアについて説明する児童。児童は、黒田先生の話を聞き、積極的に発言しています。黒田先生は、児童の意見を聞き、丁寧に答えています。児童も、黒田先生の話を聞き、積極的に発言しています。

まず一歩、踏み出そう 谷 里海への取り組みは、一人ひとりが関わること。みんなで活動して、おしなべてして知り合いを増やそう。意見交換をしよう。対話を通して新しいアイデアが生まれる。企画が立ち上がり、行動する人が増えていきます。このシンポジウムもそう。児童30人が、黒田先生のリードで、里海のことを考え、意見を述べ、知識を深めています。



浜田知事

浜田知事 香川県では、里海づくりを推進するために、様々な取り組みを行っています。里海づくりは、人と自然が共生する持続可能な社会づくりの重要な要素です。香川県では、里海づくりを推進するために、様々な取り組みを行っています。

